

西部営農経済センター営農販売課

あいざわ まさゆき

## 相澤 真之さん



Masayuki Aizawa

JAは今年4月から、農業者所得の増大に向けた取り組みとして、営農指導や青果物・米の販売業務のプロを長期間にわたり育成し、営農経済業務の体制強化を図る「専門業務従事者」を配置しました。

結城市の西部営農経済センター営農販売課に所属する相澤真之さんは、結城園芸部会白菜部とトウモロコシ部を担当し、栽培技術や農業経営の営農指導を通じて、生産者と共に安全で安心な農産物を全国の食卓に届けています。

—担当する結城園芸部会白菜部、トウモロコシ部について紹介してください—

私は今年の4月から結城園芸部会白菜部とトウモロコシ部を担当しています。白菜部は、浜野公男部長をはじめ167人の生産者が約350畝で秋冬・春白菜を作付

けしています。

部員の皆さんが生産する白菜は結城市を代表する野菜で、軟らかく甘味の強い「菜黄味白菜」を主力に出荷しています。結城市の肥沃な土地を生かし、生産された白菜は市場での評価が高くブランドが確立されています。

トウモロコシ部

は、宮田理也部長をはじめ80人の生産者が約220畝で作付しています。トウモロコシも結城市の特産物で、実の皮が軟らかくフルーツのような甘さが特徴の「味来」をJAオリジナルブランド「夏祭り」の商品名で出荷しています。

—担当者として心掛けていることはありますか—

茨城県は生産量・生産額ともに日本一の白菜の産地で、特に結城市は生産が盛んな地域です。白菜部は結城地区の生産組織の中でも、最も部員数、栽培面積が多い組織ですので、担当者としてプレッシャーを感じる反面、やりがいも感じています。同部では現状に満足することなく、栽培講習会や新品種の試験栽培を積極的に行い、品質の向上に取り組み、さらなる産地発展を目指しています。私も営農指導の知識や技術を身につけ、生産者と共に産地の歴史と伝統を守りながら向上していきたいと考えています。

トウモロコシ部では、量よりも質を重視して栽培を行っています。生産者間での品質格差を少なくし、品質・規格の揃ったトウモロコシの出荷が出来るよう指導に努めています。



白菜の生育状況を確認

—「農業者所得の増大」に向けて、どのような取り組みが必要だと考えていますか—

消費者に喜ばれ信頼される農産物の出荷体制が必要だと考えています。実際に今年度のトウモロコシの出荷時は、品質の向上を図るために検査を厳しく設定しました。トウモロコシの甘味と鮮度を保つために、生産者は太陽が昇る前から収穫作業を始めます。大切に育てたトウモロコシの等級を格下げする場合もあり、私自身、心苦しい時もありました。しかし、部員の皆さんの理解を得ながら、品質と規格の揃ったトウモロコシを出荷し続け、市場からの評価と信頼を高めることが出来ました。結果、今年度の金額は4億9800万円と過去最高の実績を挙げる事ができました。部員の皆さんの努力によって生み出された数字ですが、私自身も営農指導員として達成感を感じた瞬間でもありました。

—専門業務従事者としての意気込みを聞かせてください—

自分が提案したことに対しての答えが、収穫の実績や品質の実績として見えてくるのが、営農指導員としての魅力でもあります。良い結果がでると、それが自信となり、次の良い提案にも繋がっていくのではないかと思います。「常に勉強」という気持ちで、経験を積みながら、生産者の皆さまのお役に立てよう頑張っていきたいと考えています。



目揃え会の様子